

Contents

02-05 商品ものがたり  
産直 レタス

06-09 特集  
私たちの戦争体験談

10-11 食とくらしの安全・安心  
・畝山さんに聞く！食の安全・安心  
身の回りに潜む天然・自然の「落とし穴」  
・くらしの安全・安心  
悪質な訪問買い取り（訪問購入）にご注意を！

12-13 information/  
【募集】社会貢献活動を行う団体への助成金制度を開始します

14-15 読者投稿コーナー ほっとTIME  
16 四季彩ごはん  
レタスとトマトの  
さっぱり炒め



社会を変えていく組織で  
あり続けること

私たち京都生協は、創立以来、助け合いの組織として「誰もが笑顔でくらす持続可能な社会、安心してくらす地域社会」の実現に向けて取り組んできました。しかし、ここ最近、プラスチックゴミによる海洋汚染やCO<sub>2</sub>など温室効果ガスの排出による気候変動、まだ食べられる食品の廃棄などが大きな社会問題になっています。これらは、地球規模の大きな課題ではありますが、私たちの日々のくらし方とも関わる問題でもあります。大きな視野で問題を捉えつつ、一人ひとりが毎日の行動を見直すことが必要だと考えます。

京都生協ではお買い物袋の持参運動（レジ袋の有料化）を34年前の1985年から開始しました。現在、お買い物袋の持参率は92%となっています。そして、今、社会全体もレジ袋を廃止する動きになってきています。一人ひとりの組合員の行動が社会にも影響を与えた運動であったと思っています。これからも社会課題を一人ひとりのくらしに引き寄せて、学びを大切にしながら取り組んでいける京都生協でありたいと思います。



理事長 畑 忠男



産直 レタス

宅配にて10月1回まで毎週企画店舗にて取り扱い

※宅配は天候による数量不足や、予定数量を上回る受注があった場合、他産地のレタスをお届けする場合がございます。何卒ご了承ください。

寒暖差が  
おいしさをつくる

サラダ、サンドイッチだけでなく、チャーハンやスープに入れてもおいしい、シャキシャキの産直レタス。生産しているのは、長野県の「有限会社 トップリバー」です。軽井沢の隣に位置する北佐久郡御代田町と富士見町にある農場2カ所のほか、20の契約農家とともに野菜の生産を手がけています。

おいしいレタスが育つのは、寒

暖差がある高原地帯。トップリバーの畑があるのは標高600～1500mの場所で、夏でも夜は気温が10℃以下にまで下がるそうです。トップリバーの営業担当であり、自身もレタス畑で作業をする嶋崎隼人さんは「レタスは暑さが苦手です。そのため、収穫は標高が低い場所にある畑から始め、順次、標高が高く涼しい場所に移ります。いわば“産地リレー”で、安定供給をめざしています」と話します。

京都生協との取引は1994年、

トップリバーの前身である「佐久青果出荷組合」のころからです。「京都生協基準の生産に応えられるところを」と紹介があり、店舗でのレタス販売がスタートしました。トップリバーの歴史のなかで、もっとも長くお付き合いをしているのが京都生協なのです。

その後、生産量確保のため2000年にトップリバーを設立し、現在に至っています。生産しているのは6割がレタス。そのほかにキャベツ、白菜、サニーレタスなどを栽培しています。

▲レタスの旬は5～9月。シャキシャキとした食感とフレッシュな旨みを楽しめます